



■ 逆紹介の推進により外来数が減少もする年間平均では増加傾向

本指標は当院を利用した患者数の推移を示しています。2016年度は延べ外来患者数において前年度比で約3.3%の減少、延べ入院患者数において約2.0%の減少、新入院患者数において約1.7%の増加となりました。

2016年度は患者さんを症状や回復状況に応じて地域の開業医へ紹介する取り組み（逆紹介）を推進し、治療がすぐに必要な患者さんの受け入れに注力する急性期病院に求められる機能の充実を進めて参りました。その結果、逆紹介した比率は前年度から15.8%増加しており2016年度の延べ外来患者数の減少に結び付いたものと考えられます。

2014年度を基準とした3か年の年間平均成長率では、延べ外来患者数で1.6%、延べ入院患者数で4.9%、新入院患者数で7.7%の増加傾向にあり、それぞれの状況に応じた診療技術、人員数の維持、リスク管理をより強化していく必要があります。